



銀パソ通信

Ginpaso Tushin

発行

公益社団法人 野洲市
 シルバー人材センター
 シルバー・パソコン班
 TEL.077-586-2333
 ★ ホームページへ★
 (野洲市
 シルバー・パソコン班)
 で検索

パソコン市場 Google 攻勢

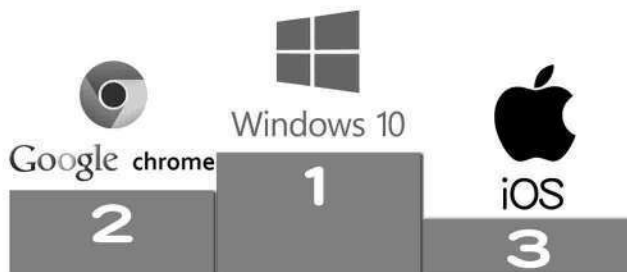
▼ OSシェア 昨年2位クロームブック新機能

パソコンとスマートフォンなどとの間の「シームレス（境目のない）」な利用を巡る競争が加速している。米グーグルは9日、同社のパソコン向けの基本ソフト（OS）「クロームOS」を搭載するクロームブックの新機能を発表した。クロームOSは昨年、アップルのマックOSを抜いて世界のパソコン市場で2位に浮上。OSのシェア争いも激しさを増している。

「昨年、クロームブックは『K～12年生』（幼稚園から高校3年生まで）の教育現場での利用で、世界でトップの機器だった」、米グーグル幹部は9日の記者向けのイベントでこう語り、教育現場で培った立場をテコに、より一般ユートザーに向けて働きかけを強める考えを示した。オープンソースの「リナックス」をベースにグーグルが開発した「クロームOS」を搭載したパソコン「クロームブック」は、2011年に韓国・サムスン電子などが発売を開始。米国では安価なノートパソコンとして教育現場での利用が進んだ。特に昨春以降のコロナ禍で、オンラインでの授業が多くなるなか、シリコンバレーの小中高でもクロームブックの導入がさらに増えた。



グーグルが9日発表したのは、スマホやパソコンなどをシームレスに使う新機能だ。パソコン上で、スマホの消音や場所を探することができる「フォン・ハブ」や、スマホとパソコンとの間での写真のやりとりなどを簡単にする「ニアバイ・シェア」などが発表された。米メディアによると、



令和2年の世界のパソコンのOSのシェアはウィンドウズが8割を占め圧倒的な首位。一方、クロームOSは10%超となり、アップルのマックOS（約8%）を初めて上回ったという。シームレス化はアップルも力を入れている。アップルは昨年末、自社製チップを搭載したマックを投入し、iPhone向けのアプリなどをマック上でも簡単に利用できるようにした。関連機器の連携性を高め、利用者を囲い込む競争がより強まっている形だ。グーグルのクロームOS担当のジョン・ソロモン副社長は取材に対し、「我々は特に利用者の使い手の向上に注力している」と強調した。（朝日新聞より） (Tuboi)

➡ 新型コロナによる緊急事態宣言 ⬅

9月から少しずつ、銀パソ・パソコン講座を予定していましたが「緊急事態宣言」が出たため、9月予定の講座は残念ながら急きょ中止とさせていただきます。今後の状況を覗っています。再開の時期が決まりましたらシルバーパソコン班のホームページ等でお知らせ致します。

パソコン売り上げ拡大中 後編



【九月号よりつづく】

Canalys の調査によれば、2020 年は成長率が過去 10 年間で最大を記録し、販売台数も 2014 年来で最大規模になった。好調な伸びをもたらしたこのトレンドについて、この 10 カ月の間、業界の話題になっていた。2020 年後半 3 カ月の大きな伸び率は、企業と消費者の両者がリモートワークとオンライン学習が固定化の動きに向かうと想定して、PC へ投資を行っているということを示している。

「成長は、企業と消費者の両サイドから生まれている」と、Canalys PC 部門チーフのルシャブ・ドーシー (Rushabh Doshi) は指摘している。「ビジネス向け出荷は、ビジネス (在宅ワーク) の継続性を確保する必要性が後押ししている。同様に、消費者の購入も、オンライン学習を維持するための必要性が原動力となり、増加につながっているのです」と、好調の理由について説明している。

企業側の視点から見ると、2020 年は多方面において「気づき」の一年だった。企業は長い間、従業員は

毎日オフィスに来て仕事

をするものと考えていたが、業務の流れを急きよリモートワークに移行したにもかかわらず、2020 年の生産性はそのままの高い水準で維持できることが分かった。さらに、それによって、不動産コストをギリギリまで切り詰め、大規模な予算削減が可能になるという大変うまみのある気づきもあった。

従業員向けにラップトップを購入する経費は、大型賃料の解約によるコストの大幅削減とは比べ物にならないものだ。この動きをさらに恒久的な対策として定着させるには、取り組まなければならない課題が山積している。販売業者は、新型コロナのワクチン接種が開始しても、この傾向が果たして続くのかどうか思いを巡らせているだろう。しかし、2020 年の売上のおかげで、「PC の時代は終わった」と話題にしなくなることは、確かだ。(完)

(Kame)



ソニー、営業増益へ デジカメ回復で上方修正

ソニーグループは 4 日、2022 年 3 月期連結業績予想 (国際会計基準) のうち、本業のもうけを示す営業利益を 9800 億円 (従来 9300 億円) に上方修正したと発表した。

従来は営業減益を見込んでいたが、新型コロナウイルス流行で落ち込んだデジタルカメラの需要が回復し、エレクトロニクス事業がけん引。音楽事業も上振れ、前期実績に比べ 2.6% の増益見通しとなった。

純利益予想も 7000 億円 (同 6600 億円) に引き上げた。十時裕樹副社長はオンライン説明会で、足元のデジカメの販売状況について「ワクチン接種が

各国で進み、ミラーレスの市場自体は戻っている」と評価した。ただ、「コロナの感染再拡大が生産や販売にどう影響を及ぼすか読みづらい」と述べ、先行きには慎重な見方も示した。

21 年 4 ~ 6 月期連結決算は、売上高が前年同期比 15.0% 増の 2 兆 2568 億円、営業利益が 26.3% 増の 2800 億円といずれも過去最高を更新した。ただ、前年同期に「巣ごもり需要」の恩恵を受けたゲーム事業は反動で大幅減益となった。

(Kame)

受講のお申し込み、パソコントラブルのお問い合わせは

TEL 077-586-2333
公益社団法人 野洲市シルバー人材センター

(講座会場は野洲市シルバー人材センターの 2 階)

